

第7回平取ダム地域文化保全対策検討会  
アイヌ文化環境保全対策調査室関係資料

## 平取ダム地域文化調査業務の概要

2008(平成20)年10月期中間報告

《 本 編 》

業務分野		ページ番号
1	精神文化現地調査	①
2	(1) 生物の生存環境調査 有用植物保全モデル地区現地調査	②
	(2) 生物の生存環境調査 工事による改変箇所現地調査	③
3	生活文化現地調査	④
4	地域文化保全対策調査	⑤
5	(1) 栽培実証試験 有用植物移植栽培試験	⑥
	(2) 栽培実証試験 有用植物移植栽培試験 モニタリング調査	⑦
	(3) 栽培実証試験 栽培工程の条件調査	⑧

事業名	アイヌ文化保全対象調査計画（案Ver. 2008-04-10） 10月期中間報告版												
業務分野	1 - 精神文化現地調査												
目的/課題	○平取ダム建設予定地周辺に存在するアイヌ民族の信仰観に根ざした精神文化について、当事者性を有する人たち等からの聞き取り調査や文献調査を行い、祈りの内容や所作の調査を行う。また、当事者性を有する人たちから、精神文化の保全対策について意向調査を行う。												
想定する成果	○精神文化の保全対策について、一定の協議を経て当事者性が強い人々をはじめとする関係者の合意形成が可能となりうる検討素案を提示する。												
* 目標とする状況・物品													
調査方針・方法	○聞き取り調査 ◇儀礼（祈りの内容や所作）に関する聞き取り ◇精神文化保全対策意向調査 =シミュレーション的な手法による判断素材を提示しながら ○現地踏査 ◇保全対策案を練るための現地ワークショップ的手法を取り入れながら ○文献調査 ○先行事例調査 ◇チノミシリ、カムイワッカ等、対象の特性に応じて保全対策の先行・類似事例を検討												
年間作業工程概要	調査項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	○年間作業計画検討	●→											
	○聞き取り対象者絞込みと準備	●→											
	○聞き取り調査		●→										
	○聞き取り調査データ整理			●→									
	○現地踏査		●									→	
	○文献調査		●									→	
	○先行事例調査		●									→	
	○保全対策検討		●									→	
	○意向調査とその分析		●									→	
○成果の取りまとめと報告作成							●					→	
作業行程上の留意点	○「聞き取り」対象者の選定を慎重に。 → キーワード=「当事者性」 ◇文献等既存情報の利用は平取町立二風谷アイヌ文化博物館との連携・協力による。												
主担当	◎木村												
副担当	○貝澤(朱) ○織田												
作業チーム構成	* チーム編成（主・副担当等）は前年度までの状況をふまえた当面の措置												
備考 (今後の展開上の留意点等)													

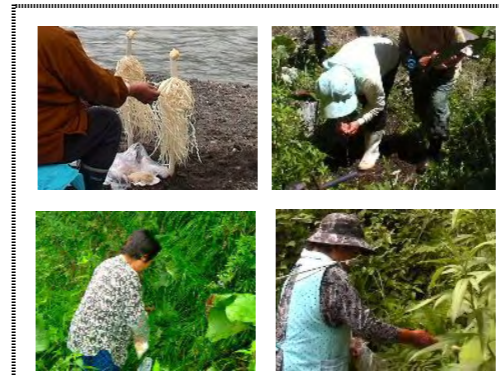
1 ■ 10月までの作業状況写真



4月：聞き取り調査風景



5月：川洲畑でのカムイノミ（神への祈り）



6月～10月：祈りの内容や所作に関する既存記録整理作業



8月～9月祈りの内容や所作に関する事例調査



【萱野茂 2007年『萱野茂のアイヌ語辞典 増補版』三省堂P143、P187】より

4月～10月：祈りの内容や所作に関する文献調査



4月～10月：既存の成果（H15～19年度）データ抜粋作業

2 ■ 進捗概況と成果

- ◇『総括報告書（H15～17年度）』や既存の『調査班報告書（H18、19年度）』をもとに祈りの内容や所作について詳細な情報を把握するために既存のデータ（聞き取りテープおこしデータ、録音ビデオ）等から情報を抜粋し、整理作業を行った
- ◇聞き取り調査の質問事項検討の際や今後の精神文化についての保全対策検討のための参考資料として文献調査や先行事例調査を行った【作業中】
- ◇年間作業工程より、若干、調査業務が遅れているが、協力者別や保全対象別に整理した既存の成果をもとに今後、祈りの内容や所作についての聞き取り調査を行う予定

3 ■ 今後の留意事項、要調整点など

- ◇聞き取り対象者（当事者性が強い人々をはじめとする関係者）との調整作業
- ◇意向調査を行うための先行事例調査→シミュレーション的な手法による判断素材の提示
- ◇意向調査の分析作業→保全対策案についての当事者性が強い人々をはじめとする関係者の合意形成が可能となりうる検討素案の提示

事業名	アイヌ文化保全対象調査計画（案Ver. 2008-04-10） 10月期中間報告版												
業務分野	2 - 生物の生存環境調査（1）＝有用植物保全モデル地区現地調査												
目的／課題	○有用植物保全モデル地区（5箇所程度）のアイヌ文化に有用な植物（木本、草本）について、詳細な育成状況（種、数量、位置等）を把握する。												
想定する成果 * 目標とする状況・物品	○H19年度調査による成果をふまえ、より詳細に植生・分布状況（種、数量、位置等）等を把握し明示した現況の図版と解説文												
調査方針・方法	<p>○現地踏査＝有用植物保全モデル地区の詳細な調査により種、数量、位置等を把握する。</p> <p>○調査・分析は、平取ダム地域文化保全対策検討会において協議・確認された方針にそって行う。          ◇展示目的（種の多様化）には「有用植物全体リスト」に対して不足するもの、          ◇増殖目的（量的増大）には「代表的植物リスト」に対して不足する当該植物について、補植による保全管理を行う。なお、補植時期については試験湛水時期を考慮する。（第6回平取ダム地域文化保全対策検討会資料3-5参照）</p> <p>○平取ダム自然環境調査の成果に留意し、調整を図る。</p>												
年間作業工程概要	調査項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	○年間作業計画検討	●→											
	○現地踏査（草本）	●								→			
	○現地踏査（木本）	●								→			
	○図版作成	●											→
	○解説文作成	●											→
	○成果の取りまとめと報告作成							●					→
作業工程上の留意点	<p>○種、数量、位置等の調査対象となる植物種を絞り込む。</p> <p>○第1のポイントは、モデル地区として設定した方向に適合しているかどうか。</p> <p>◇文献等既存情報の利用は平取町立二風谷アイヌ文化博物館との連携・協力による。</p>												
主担当	◎川島												
副担当	○井澤 ○貝澤(朱)												
作業チーム構成	* チーム編成（主・副担当等）は前年度までの状況をふまえた当面の措置												
備考（今後の展開上の留意点等）													

1 ■ 10月までの作業状況写真



4月～9月：モデル地区内草本調査



4月～9月：モデル地区内草本調査



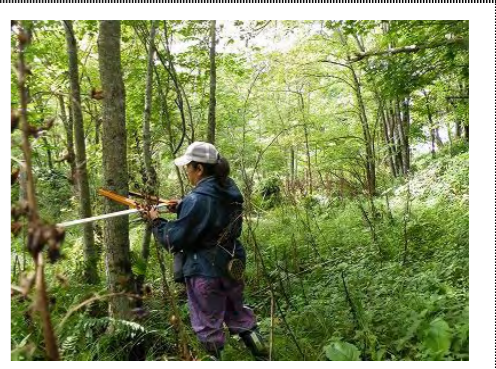
4月～9月：モデル地区内確認作業



8月：S-05で辻井先生からの全木調査指導



4月～9月：S-05 全木調査(樹冠)作業風景



4月～9月：S-05 胸高樹径調査作業

2 ■ 進捗概況と成果

- ◇モデル地区-2（S-05）において、木本・草本の詳細調査・胸高樹径（地上130cm）1cm以上は印を付ける。
  - ・1cm以下のものは観察記録のみ。
  - ・草は名前をすべて記録。
  - ・5ブロックを設定、調査は終了しました。
- 木本・草本の全木調査・胸高樹径（地上130cm）20cm以上のものとする。
  - ・有用植物については胸高樹径（地上130cm）5cm以上のものとする。
  - ・草は名前をすべて記録。
- ◇モデル地区-1（N-03）において草本調査 ◇モデル地区-3（S-11）において草本調査
- ◇水生植物保全モデル地区（S-10）において草本調査 ◇スプキ（ヨシ）保全モデル地区（N-08）において草本調査

3 ■ 今後の留意事項、要調整点など

- ◇詳細調査や全木調査をS-05区域においておこなってきたが、「モデル地区」として整備を進める条件を備えた場所であり、今後の継続的調査・対策の推進が必要
- ◇樹種の判別を的確に、また効率的に行うために、図鑑類などの整備や、専門家のアドバイスを随時受けられるようにすることが必要

事業名	アイヌ文化保全対象調査計画（案Ver. 2008-04-10） 10月期中間報告版												
業務分野	2 - 生物の生存環境調査（2）＝工事による改変箇所現地調査												
目的／課題	○平成20年度以降の工事工程をふまえ、工事による改変箇所のアイヌ文化に有用な植物で将来アイヌ文化伝承に活用でき、移植可能な植物の育成状況（種、数量、位置等）を把握し、必要に応じて移植試験を行う。												
想定する成果 * 目標とする状況・物品	○19年度道路工事区域の調査に準じて、植生・分布状況（種、数量、位置等）等を把握し明示した現況の図版と解説文 ○19年度道路工事区域の移植試験に準じて必要・可能な植物を移植												
調査方針・方法	○現地踏査（改変箇所育成状況把握調査） ◇H18～19年度道路工事区域の調査に準じて行う ○現況を示した状況図等作成 ○有用植物移植試験（稚樹、伐株、木彫用） ◇H19年度道路工事区域の移植試験に準じて行う ◇移植方法等についての先行事例調査・検討 ◇移植作業の過程についての経過観察・記録												
年間作業工程概要	調査項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	○年間作業計画検討	●→											
	○改変箇所現地調査	●	●	●	●	●	●	●					
	○有用植物移植調査	●	●	●	●	●	●	●					
	○移植作業	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	○成果の取りまとめと報告作成							●	●	●	●	●	●
作業工程上の留意点	○移植可能な植物種の絞り込みが緊要である。 ◇文献等既存情報の利用は平取町立二風谷アイヌ文化博物館との連携・協力による。												
主担当	◎井澤												
副担当	○川島 ○織田												
作業チーム構成	* チーム編成（主・副担当等）は前年度までの状況をふまえた当面の措置												
備考 （今後の展開上の留意点等）													

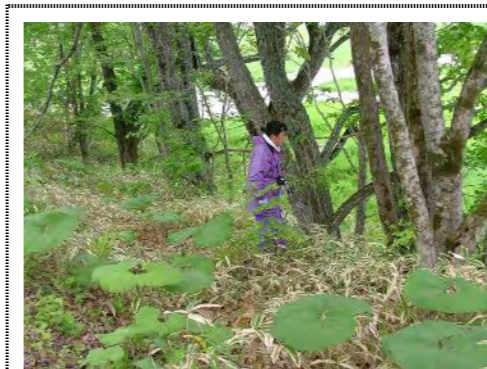
1 ■ 10月までの作業状況写真



6月：工事用道路2の植物調査風景



6月：付替道路工事箇所選定樹木リボン付けの様子



5月：付替道路工事箇所1200m付近の調査風景



10月：付替道路工事箇所稚樹移植作業



6月：作業ヤードの移植希望樹木選定作業



10月：付替道路工事箇所の草本ブロック移植作業

2 ■ 進捗概況と成果

- 付替道路工事箇所、工事用道路、迂回路周辺においては現地調査を実施し、現地における植生を把握
- 各改変箇所において、移植可能と思われる植物の選定作業を実施し、状況図を作成
- 付替道路工事箇所500-700においては、移植可能な樹木・草本を選定し、3種8本の樹木と1m四方3ブロックの草本をS-05へ移植作業を実施
- 工事・発掘など工事改変に伴う作業の簡単な記録
- 実施した作業のデータを現在整理中
- 今後成果の取りまとめおよび報告書作成

3 ■ 今後の留意事項、要調整点など

- 工事箇所斜面では、牧野林が活力をもって再生しているので、今後改変箇所周辺においては、周囲の環境に配慮するよう留意お願いしたい
- 掘削や切とおしなど図面を見て思う以上の改変が感じられ、アイヌ文化の保全および環境を考慮し、アイヌ文化保全対象調査を反映した工事改変がされるよう極力お願いしたい
- 改変箇所周辺において事業所で行われている環境調査が未実施な所があり、環境調査と調査室の調査時期などの調整を図るよう事業所の方をお願いしたい

事業名	アイヌ文化保全対象調査計画（案Ver. 2008-04-10） 10月期中間報告版												
業務分野	3 - 生活文化現地調査												
目的／課題	○アイヌ文化期にかつて行われていた栽培様式（川洲畑）について、栽培様式を伝承する際の基礎資料とするため、聞き取りや現地調査等に基づいて栽培実験（2カ所程度）を行い、生育状況を把握する。												
想定する成果 * 目標とする状況・物品	○今後継続的に利用しうる川洲畑作業地 ○川洲畑による各種作物の収穫物（種子等） ○作業過程と成果の記録、その分析の報告												
調査方針・方法	○現地踏査 ◇現地ワークショップ的手法を取り入れながら ○栽培実験（2カ所程度の川洲畑） ○聞き取り調査 ○文献調査 ○先行事例調査												
年間作業工程概要	調査項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	○年間作業計画検討	●→											
	○川洲畑候補地現地調査	●→											
	○川洲畑準備および種蒔き	●→											
	○管理（生育状況確認/月1回程度）	●→	●→	●→	●→	●→	●→	●→	●→				
	○聞き取り調査	●→							●→				
	○聞き取り調査データ整理	●→							●→				
	○収穫作業							●→	●→				
	○先行事例調査	●→								●→			
○成果の取りまとめと報告作成							●→					●→	
作業工程上の留意点	○作業地の選定を早急に行う。 ◇文献等既存情報の利用は平取町立二風谷アイヌ文化博物館との連携・協力による。												
主担当	◎長野												
副担当	○鈴木 ○笠原												
作業チーム構成	* チーム編成（主・副担当等）は前年度までの状況をふまえた当面の措置												
備考 （今後の展開上の留意点等）													

1 ■ 10月までの作業状況写真

4月：候補地の絞込み（7カ所→2カ所）  
5月：栽培実証試験（耕起&種蒔き作業）  
6月：モニタリング  
9月：モニタリング  
9月：ピバ（貝）※収穫に使用する道具作り  
9月：収穫

2 ■ 進捗概況と成果

<進捗状況>  
 ◇聞き取り調査 - 5回実施。 ※現在、聞き取り文章の内容確認のための準備作業中  
 ◇管理 - 生育状況は播種日（5月14日）の次の週から6月11日まで毎週確認。その後は隔週とした。（大雨による災害により確認できない週あり）9回実施  
 ◇収穫（9月12日実施）  
 ◇文献調査、先行事例調査→データの蓄積作業中  
 <成果>  
 ◇聞き取り調査のデータ（聞き取りテープ、記録画像等）※5回実施  
 ◇現地ワークショップ的手法→聞き取り協力者指導による手法  
 ◇収穫物→次年度の種として保存

3 ■ 今後の留意事項、要調整点など

◇川洲畑の実施箇所の検討→実施箇所が遠いため管理作業が難しい。  
 ◇近隣の川洲畑実施箇所の検討  
 ◇種の確保と選定（川洲畑には穀物に限定して蒔く）  
 ◇作業過程と成果の記録と分析

事業名	アイヌ文化保全対象調査計画（案Ver. 2008-04-10） 10月期中間報告版												
業務分野	4 - 地域文化保全対策普及調査												
目的／課題	○地域文化保全対策普及方策の基礎資料とするため、平成19年度に取りまとめたアイヌ語地名について、一般配布できるように加工（パンフや小冊子等）し、それを地域のゆかりのある人々に配布、アンケート調査を行い、資料をまとめる。												
想定する成果 * 目標とする 状況・物品	○普及啓発用アイヌ語地名・地図付きパンフ（暫定版？） ○アイヌ語地名に関するアンケート調査の結果集約・分析とその報告												
調査方針・方法	○これまでの地名調査の成果に依拠して取り組む。 ◇とくにH18～19年度に構築されアイヌ語地名データベースを補充しつつ、その成果を活用するという観点で作業を進める  ○アイヌ語地名を、そのもととなっている地形・環境等とともに保全し、定着させるための方策を探ることを目的として実施するアンケート調査である。 ◇例えば、「アイヌ語地名が重要だと思うか否か」というように、事業者側にとって自明で前提的なことをあらためて尋ねる設問とはならない												
年間作業工程概要	調査項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	○年間作業計画検討	●→											
	○アイヌ語地名普及啓発資料作成	●→											
	○アンケート調査内容検討				●→								
	○アンケート調査実施										●→		
	○アンケート集計作業												●→
	○成果の取りまとめと報告作成												●→
作業工程上の留意点	○パンフ掲載の対象となる地名を早急に、わかりやすさを旨に選定。 ◇文献等既存情報の利用は平取町立二風谷アイヌ文化博物館との連携・協力による。 ◆北海道大学アイヌ・先住民研究センターの協力によるアイヌ語監修。												
主担当	◎長野												
副担当	○鈴木 ◇吉原 ◆川上												
作業チーム構成	* チーム編成（主・副担当等）は前年度までの状況をふまえた当面の措置												
備考 （今後の展開上の留意点等）													

1 ■ 10月までの作業状況写真



アイヌ語地名データベース活用方法検討作業



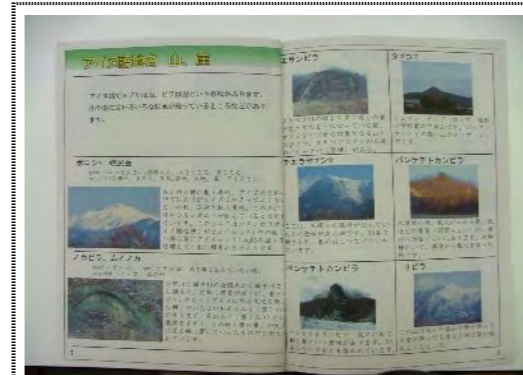
大きなマップを使い普及啓発内容・方法を協議



データベースは随時に更新・調整作業を継続



地名普及啓発資料（印刷物）原案の作成作業



地名普及啓発資料（印刷物）原案のレイアウト例



地名普及啓発資料（印刷物）原案のレイアウト例

2 ■ 進捗概況と成果

◇前年度までに基礎を構築したアイヌ語地名データベースをもとに、普及啓発用印刷物の内容を検討し、原案を作成した。

◇アイヌ語地名に関するアンケートの内容・方法を検討中である。

◇デジタル媒体・ネットワークを通じてアイヌ語地名データベースに蓄積された情報を普及・活用する方法についても検討中である。

3 ■ 今後の留意事項、要調整点など

◇印刷物のイメージ、内容、活用方法についての詰めの調整をいそぐ

◇精神文化、文化景観、生物の生存環境などとアイヌ語地名の関連づけ・分析が必要

◇データベース活用・公開の方針を定め、運用に向けてハード、ソフトの両面から準備を進める段階 ← アイヌ語地名の取り扱いに即した技術とルールの開発・策定

事業名	アイヌ文化保全対象調査計画（案Ver. 2008-04-10） 10月期中間報告版												
業務分野	5 - 栽培実証試験（1）＝有用植物保全モデル地区栽培試験												
目的／課題	○有用植物の保全対象候補地で育成することができる木本及び草本の種や数量等を検討する基礎資料とするため、有用植物保全モデル地区（5カ所程度）において、春期から秋期までの間、アイヌ文化に有用な木本と草本の栽培実証試験を行う。また、二風谷地区では播種の栽培実証試験を行う。												
想定する成果 * 目標とする状況・物品	○植物種別ごとの経過観察と記録 ○モデル地区別、あるいは栽培・半栽培・保護等の保全方法別の経過観察と記録 ○試験作業を実施した結果としてのモデル地区整備 ◇今後における保全対策の基盤となる												
調査方針・方法	○2 - 生物の生存環境調査（1）＝有用植物保全モデル地区現地調査と並行・連動させ、その成果を適時に活用しながら作業を進める、 ○調査・分析は、平取ダム地域文化保全対策検討会において協議・確認された方針にそって行う。 ◇展示目的（種の多様化）には「有用植物全体リスト」に対して不足するもの、 ◇増殖目的（量的増大）には「代表的植物リスト」に対して不足する当該植物について、補植による保全管理を行う。なお、補植時期については試験湛水時期を考慮する。（第6回平取ダム地域文化保全対策検討会資料3-5参照） ○現存する有用植物の生育環境を維持・支援していく半栽培の方法を取り入れた保全管理を行う。												
年間作業工程概要	調査項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	○年間作業計画検討	●→											
	○木本、草本の選定作業	●→											
	○木本・草本実生の移植	●→											
	○種子採取および播種作業	●→											
	○モニタリング（月1～2回）	●→											
	○現地踏査	●→											
	○聞き取り調査	●→											
	○文献調査	●→											
	○有用植物移植（稚樹・伐株移植）	●→											
○成果の取りまとめと報告作成													
作業工程上の留意点	○種、数量、位置等の調査対象となる植物種を絞り込む。 ◇文献等既存情報の利用は平取町立二風谷アイヌ文化博物館との連携・協力による。												
主担当	◎川島												
副担当	○井澤 ○笠原												
作業チーム構成	* チーム編成（主・副担当等）は前年度までの状況をふまえた当面の措置												
備考 （今後の展開上の留意点等）													

1 ■ 10月までの作業状況写真



5月：有用植物保全モデル地区（N-03）池の様子



7月：有用植物保全モデル地区（N-03）池の様子



8月：有用植物保全モデル地区（N-03）池の草除去



4月～9月：育苗畑2環境整備作業



4月～9月：前年度播種樹木のポット移植作業



4月～9月：モデル地区（S-05）水生植物移植作業

2 ■ 進捗概況と成果

◇＜多様な木本・草本類の保全モデル地区-2（S-05）＞において、ヒシ（ペカンペ）・ガマ（シキナ）・工事箇所からの木本・草本の移植を試した。  
工事箇所からの木本数は3種・8本、草本は1mブロックを3枚。  
◇＜多様な木本・草本類の保全モデル地区-1（N-03）＞において、池の中にガマを確認したので周囲の雑草の除去作業を試みた。  
◇＜多様な木本・草本類の保全モデル地区-3（S-11）＞においてハルニレ（チキサニ）の実生がたくさん確認できた。→ 生育環境の整備作業を試みる事が可能  
◇＜水生植物保全モデル地区（S-10）＞においては、大雨により川の流れが大きく変化している状況。→ 試験湛水期間終了までは人為的な作業は実施しない。  
◇＜スギキ（ヨシ）保全モデル地区（N-08）＞→ 生育環境整備作業を試行

3 ■ 今後の留意事項、要調整点など

◇今後の既存の有用植物などの生育環境整備の実施に伴い道具不足を解消していきたいと考えています。  
◇牧草地などの近隣住民への貸し出しについての確認作業をおこないながら各モデル地区において環境整備作業を次年度以降もおこないたいと考えています。

事業名	アイヌ文化保全対象調査計画（案Ver. 2008-04-10） 10月期中間報告版												
業務分野	5 - 栽培実証試験（2）=有用植物移植栽培試験モニタリング調査												
目的／課題	○平成19年度に芽生貫気別線工事力所から委嘱した、アイヌ文化に有用な植物の育成状況（新芽や根付き状況）を把握するためにモニタリング調査を行う。												
想定する成果 * 目標とする状況・物品	○無雪期を通じた状況・経過の観察と記録、その報告 ○モニタリングの方法論を確立 ◇マニュアル、チェックリストなどの形で ◇先行・類似事例の調査を含む												
調査方針・方法	○モニタリングする事項（監視・点検事項）を検討・選定し、マニュアルとチェックリストを作成、それにしたがって定期的な観察を継続する。 ○モニタリングの対象すべてにカード（カルテ）を作成する。 ◇データベース的に個別管理のシステムをつくる												
年間作業工程概要	調査項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	○年間作業計画検討	●→											
	○マニュアル作成	●→											
	○チェックリスト作成	●→											
	○モニタリング（月2回程度）	●→	●→	●→	●→	●→	●→	●→	●→	●→	●→	●→	●→
	○成果の取りまとめと報告作成							●→	●→	●→	●→	●→	●→
作業工程上の留意点	○事業着手後、できる限り速やかに現地状況を把握する必要がある。 ○新芽、根付きの状況、その他のチェック項目を早急にリストアップし、作業手順をマニュアル化する必要がある。 ◇文献等既存情報の利用は平取町立二風谷アイヌ文化博物館との連携・協力による。												
主担当	◎木村												
副担当	○織田 ○笠原												
作業チーム構成	* チーム編成（主・副担当等）は前年度までの状況をふまえた当面の措置												
備考 （今後の展開上の留意点等）													

1 ■ 10月までの作業状況写真



4月：基礎データ収集作業（樹高・樹径）



5月：個別管理プレート設置作業



4月～10月：育苗畑1モニタリング調査



4月～10月：育苗畑2モニタリング調査



4月～10月：S-05モニタリング調査



5月～10月：種子記録作業

2 ■ 進捗概況と成果

- ◇多様な木本・草本類の保全地区モデル-2（S-05）におけるモニタリング（監視・点検事項）については、月2回（現況調査も含む）を定期化し、個別の育成状況のデータも蓄積されている
- ◇育苗畑1、2におけるモニタリングについては、草本類が多いため栽培目的に応じた種別対応とし、開花・種子の結実期等に配慮し、週2～3回とした
- ◇個別管理システム（カード形式カルテ）への個別データを入力中【データベースの形式については、今後も検討しながら作業を行う】

3 ■ 今後の留意事項、要調整点など

- ◇蓄積された情報の分析作業（栽培方法別での生育状況＝活着率等）
- ◇今後（次年度以降）のモニタリングを円滑に行うために今年度、移植・栽培した種の個別データ（樹種・樹高・樹径・移植箇所・位置）の引継ぎ等→5（1）分野から
- ◇モニタリングを定期的、円滑に行うための栽培、移植地の検討
- ◇移植、栽培地の管理に関する資材・施設等の確保
- ◇シカ対策、活着が確認されない木本の対策等が必要→ 問題点に専門的見地をふまえ随時・適時に対処していくためのワーキングチーム的な仕組みの構築が今後の課題



事業名	アイヌ文化保全対象調査計画（案Ver. 2008-04-10） 10月期中間報告版												
業務分野	5 - 栽培実証試験（3）=栽培工程の条件調査												
目的/課題	○アイヌ文化伝承のために必要となる有用植物の資源量を想定し、それを確保できるような半栽培や播種等の栽培工程の条件を整理する。												
想定する成果 * 目標とする状況・物品	○植物に関するデータベースを構築し、その特徴やアイヌ文化にとっての有用性、栽培工程等についての情報管理を容易に行えるようにする。 ○アイヌ文化伝承のために必要となる「有用植物」の資源量に関するシミュレーションを行い、その結果を提示する。												
調査方針・方法	○植物に関するデータベースを作成する。 ○「有用植物」の資源量に関するシミュレーションを行う。 ◇アイヌ文化「伝承」そのものの将来像を問うことになる ◇「有用」性の内容を具体的に示す必要 ◇イオル構想など、他の施策・事業との調整を図る必要 ○上記のことをふまえ、栽培工程の諸条件を整理し提示する。												
年間作業工程概要	調査項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	○年間作業計画検討	●→											
	○植物データベース構築作業		●→										
	○植物資源量シミュレーション			●→									
	○栽培工程諸条件に関する整理				●→								
	○成果の取りまとめと報告作成							●→					
作業工程上の留意点	○作業を優先させる植物種の絞り込みを先行させる。 プライオリティ（優先性）の判断がポイント ◇文献等既存情報の利用は平取町立二風谷アイヌ文化博物館との連携・協力による。												
主担当	◎貝澤（朱）												
副担当	○川島 ○長野												
作業チーム構成	* チーム編成（主・副担当等）は前年度までの状況をふまえた当面の措置												
備考 （今後の展開上の留意点等）													

1 ■ 10月までの作業状況写真



4月～5月：前年度データ確認作業



8月：育苗畑環境整備、下枝刈り



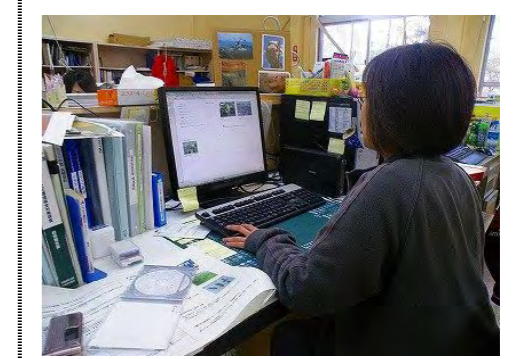
6月：播種作業、新芽確認作業



9月：水生植物モニタリング



7月：育苗畑環境整備、苗木移植作業



5月～10月：データ構築作業

2 ■ 進捗概況と成果

◇調査室で試みている栽培・半栽培の方法（播種、稚樹・切株移植等）について、モニタリングを通じて状況把握し、分析を行っている。これをふまえて、栽培の工程・方法等について整理をしている。  
◇成果として、木本・草本の各種ごとに、適切な栽培・半栽培の方法（ノウハウ）を構築するためのデータを蓄積しつつある。

3 ■ 今後の留意事項、要調整点など

◇現地での実証試験や、モニタリング等の状況を継続的に把握しながら、有効な方法・工程について探究していく。